
会員増強と新地域支援事業への対応を

～市町村老人クラブ連合会役員等研修会を開催しました～

去る1月8日、昨年度に引き続き、徳島市のザ・グランドパレスにおいて「市町村老人クラブ連合会役員等」が開催され、飯泉嘉門徳島県知事をはじめ県担当課にも臨席いただき、県下全市町村から役員等74名が参加しました。

はじめに、伊丹県老連会長から、会員増強運動と新地域支援事業という2つの大きな課題にしっかりと対応し、老人クラブの活性化につなげてほしいと挨拶がありました。



続いて、来賓を代表して、飯泉嘉門徳島県知事より本県発祥の友愛訪問をはじめとする老人クラブ活動の重要性は、長寿社会において一層高まっているので、健康寿命を延ばして生涯現役で活躍されるよう期待していますと励ましの祝辞をいただきました。

続いて事務局から、今回の研修会のテーマでもある「会員増強運動」及び「新地域支援事業」について基調説明を行い、会員増強運動については昨年度の取り組み結果などについて、新地域支援事業については事業の概要と老人クラブの関わり等について説明しました。

その後、事例発表に入り、会員増強運動では三好市老連事務局の宮内氏から、三野町加茂宮地区における「加茂宮友愛クラブ」復活の経緯について発表があり、先頭に立ってくれるお世話役の存在が重要とのことでした。石井町老連柳本会長からは、成果をあげた会員増強の取り組みについて、会費を統一したことや活動費の配分方法の見直し、行政の協力支援など10項目の要因を説明、何より個々の点を線をつないで「絆」を強めるとの思いで臨むことが重要であるとのことでした。

新地域支援事業では、まず全国老人クラブ連合会で行われた事業検討会（平成27年1月28日開催）に本県から参加した板野町老連の田村会長から報告があり、特にボランティアの登録により日常生活支援を行う神戸市老連の取り組みが印象に残ったとのことでした。阿南市老連の坂東会長からは、事業への関わり方について、阿南市と協議中である。老人クラブだけではなく、シルバー大学校OBの方々も巻き込むなど、みんなで考えていく必要があるとの思いが述べられました。

各事例とも今後に向けて、大いに参考になるもので参加者は熱心に聞き入っていました。最後に吉尾副会長による閉会のことばで研修会を終了しました。



午後からは、恒例となった「新年互礼会」を実施、午前の研修会に引き続きご参加いただいた松浦保健福祉部長による乾杯の発声で始まりました。互礼会には春木長寿いきがい課長にも引き続き参加、役員らと交流を深めていました。カラオケなどで大いに盛り上がった会は、最後に細井副会長による万歳三唱をもって終了しました。